

風景的視点に基づく路面公共交通と都市公共空間のデザイン要素分析 とデータベース構築

Design Analysis of Urban Public Spaces and LRT based on the Urban Scenery

ペリー 史子（PERRY Fumiko）

海外で導入の進んでいる新たな路面公共交通、LRT(Light Rail Transit 次世代型路面電車)は、歩行を補助するための、人や環境に優しく快適な輸送手段としての役目にとどまらず、導入諸都市ではその沿線に、歩くことが楽しくなるような、人々で賑わう豊かな歩行者空間が数多く作られている。都市構想全体の中で交通施設も整備されることから、美しい都市風景創出もその中に含まれていると考えられる。

そこで本研究では、LRT 導入諸都市を対象として文献調査・現地実態調査を実施し、都市公共空間を一つの風景として取り上げ、個々の風景を構成する要素（例えば LRT 車体、停留所、ストリートファニチャー、歩道面等）のデザイン的特徴を探ると共に詳細な構成要素に分解し、要素毎に多様なデザインを分類・分析し、デザイン・データベースとして再編成することとした。これは、真に歩きたくなる空間のデザイン手法および評価法確立のための基盤づくりである。2019年度はこの第一歩として、今までに実施してきたヒアリングを含む現地実態調査において収集した資料を新たな視点に基づいて再整理し、考察を行うと共に、欧州と同様に路面電車の歴史を持つアメリカの LRT 導入都市、ヒューストン、ダラスにおける現地実態調査を実施した。

都市風景という視点からの LRT プロジェクトの整備・デザインに関する考察をまとめると次のようになる。

- ・特にラウンドアバウトや駅周辺空間において、車を排除し人のための広場へと転換を進めている。
- ・景観保護のために架線をなくす様々な工夫・技術革新を進めている。
- ・軌道のみではなく、周囲の公共空間を建物ファサードからファサードまで含めて整備対象ととらえている。
- ・緑地帯や歩道、自転車道の充実が整備内容としてあげられている。

なお、研究成果の一部は、「トラム整備の国間・都市間比較に関する考察 -フランス、スペイン、イギリス 14 都市を対象として-」（土木計画学研究・講演集 Vol.60、2019年10月刊行）にまとめられている。